

- [分類] 普及技術
 [成果名] レタス斑点細菌病防除にコサイド 3000 が有効である
 [要約] レタス斑点細菌病防除にコサイド 3000 の 2,000 倍液を散布する。なお、本剤の散布により外葉に褐色斑点状の薬斑を生じることがあるので、生育期後半での使用は控える。
 [担当] 野菜花き試験場環境部
 [部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

レタス斑点細菌病は、本県における初夏から夏季におけるレタスの安定生産の大きな阻害要因であることから、より本県の農作物病害虫・雑草防除基準を拡充する必要がある。コサイド 3000 は、無機銅系の薬剤であり、細菌性病害に対して現地での防除効果が高いと考えられ、県内での防除効果を検討したところ、有効性が確認されたため今回普及技術として提案する。

2 成果の内容・特徴

(1) レタス斑点細菌病防除にコサイド3000の2,000倍液を散布する。なお、本剤の散布により外葉に褐色斑点状の薬斑を生じることがあるので、生育期後半での使用は控える。

農薬登録内容

コサイド 3000

[一般名および成分含量] 水酸化第二銅 46.1%（銅として30.0%）

[毒性]人畜毒性：毒物、劇物に該当しない [魚毒性] B類相当

[野菜類に対する適用登録状況（平成23年9月21日JPP-NET確認）]

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	散布液量（/10a）	銅を含む農薬の総使用回数
野菜類	軟腐病 黒腐病 斑点細菌病 褐斑細菌病	2,000	散布	—	—	100～300 リットル	—

3 利用上の留意点

- (1) 本剤は、発病後の散布では十分な効果が期待できないため、使用は生育期前半から予防的に実施する。
 (2) 本剤の散布により外葉に褐色斑点状の薬斑を生じることがあるので、生育期後半での使用は控える。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

平成 20、21 年にコサイド 3000 の斑点細菌病に対する防除試験を実施した。

- (1) 平成 20 年の試験は、少発生(自然発病)条件下の試験で、対照のコサイドボルドーの 1,000 倍と比較して同等の効果で、無処理と比較しても防除効果は認められた。

表1 レタス斑点細菌病に対するコサイド3000の防除効果（平成20年、野菜花き試験場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
コサイド3000	2,000	49	14.4	4.8	66.0	なし
コサイドボルドー	1,000	53	12.0	3.4	75.9	なし
無処理	—	48	34.6	14.1		

注) 試験場所：原村試験地

品種：「Vレタス」定植5月19日。

区制・面積：1区6.0㎡3反復。

処理月日：6月4、12、18、24、30日に、2頭口電池モーター式噴霧器を用いて10a当たり200リットルになるように均一に散布した。試験期間中は梅雨期にあたり、第2回目散布日のみ午前中に4.5mmの降雨があったため、薬剤は夕方18時に行ったが、その他はおおむね晴天であり、降雨の影響はなかったと思われる。

調査：7月4日に各区48～53株について、発病程度別に調査した。薬害の有無については、随時観察して判定した。

程度別発病指数 0：無発病 1：外葉の一部に病斑が認められる 2：大部分の外葉に病斑が認められる
3：外葉だけでなく、内葉に病斑が認められる 4：結球葉にまで発病する

発病度 = Σ (発病指数 × 株数) / (4 × 調査株数) × 100

防除価 = (無処理区の発病度 - 処理区の発病度) / 無処理区の発病度 × 100

- (2) 平成21年の試験は、病原菌接種の少発生条件下の試験で、対照のコサイドDFの1,000倍と比較して同等の防除効果を示した。無処理区と比較しても、防除効果は認められた。なお、本剤の処理の影響と思われる薬害症状が認められ、第2回目散布以降に、外葉に褐色斑点状の薬斑が発生した。生育停止や生育遅延といった重篤な薬害症状ではなく、軽微なものではあったが、本剤の結球期以降の使用は控え、生育初期～中期までが妥当だと考えられた。

表2 レタス斑点細菌病に対するコサイド3000の防除効果（平成21年、野菜花き試験場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
コサイド3000	2,000	50	10.7	2.7	67.5	あり
コサイドDF	1,000	50	13.3	3.3	60.2	あり
無処理	—	50	31.3	8.3		

注) 試験場所：場内（旧北信支場）

品種：「ルシナ67」定植5月28日。

区制・面積：1区10.3㎡3反復。

処理月日：6月12、19、25日に展着剤（グラミン10,000倍）を加用し、背負い式動力噴霧器を用いて10a当たり250リットルになるように均一に散布した。試験期間中、薬剤散布日はおおむね晴天であり、降雨の影響はなかったと思われる。

調査：7月3日に各区50株について、発病程度別に調査した。薬害の有無については、随時観察して判定した。程度別発病指数、発病度および防除価の算出方法は表1に同じ。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

新農薬の効果試験、平成20、21年度（2009、2010年度）、民間受託